

園長通信

「例年通りではない日々の中での育ちを願って」

園長 安達 譲
yuzuru@hijiri.ed.jp

今週から分散登園が始まりました。1時間という短い時間からのスタートでしたがHC以外の保育室に子ども達と先生達の姿があり、幼稚園という場所が幼稚園らしくなり、園に少しずつ活気が戻ってきました。

新年度が始まってから、先生達の努力で様々な動画の配信をしたり、ZOOMのクラス会をしたりと試みてきました。そして、園庭開放、分散登園というように感染の状況に応じて保育のレベルを少しずつ通常の保育に近づけてきましたが、先生達が家庭に居る子ども達のことを思いながら様々なことにチャレンジしている姿に年齢や立場を超えて人として同じ教育に携わる者としてリスペクトしながら見守ってきました。まだまだこれから新しいクラスに馴染んでいく時期ではありますが、毎日少しずつでも子ども達が幼稚園の中で楽しみを見つけ、行きたい気持ちがどんどん膨らんでくれたらと願います。

明日には大阪府も緊急事態宣言が解除される見通しですので、徐々に学校や幼稚園の再開に向けての指針が示されるなど再開への動きが活発化してくると思いますが、各ご家庭では、登園を待ちわびるお気持ちと感染への不安感の両方のおありではないでしょうか。今週の分散登園を実施するにあたり、園ではミーティングを重ねてきました。その中で大切にしたいこととして、感染を防止しながら保育をしていくので、「例年通り」の教育計画や月案や週案に盛り込まれた内容(コンテンツ)を無理に子どもにさせることや、例年通りできないストレスを教職員が感じることをないようにすることを共有しました。

例年通りの活動や行事と同じではない(違うように見える)けれども例年通りの育ちを願って保育を行いたいと思います。大人の姿で例えるとするなら、ひじりで働いている先生達の中には学生時代にバスケット、ラクロスなどの運動系のクラブに所属していた先生も居ますし、吹奏楽などの文化系のクラブに所属していた先生も居ます。経験していることは違ってもチ

ームとして1つのことを成し遂げる苦労や喜びを知っているということでは同じで、その経験を活かしている姿があります。子ども達も同じで、幼稚園教育要領で謳われている5領域や幼稚園に始まり小中高校までの学校教育における共通のねらいである、3つの資質能力(知識・技能、思力・判力・表現力、学びに向かう力・人間性)などを踏まえてどんな力(コンピテンシー)を育てたいかを再確認して、再構築していきます。又、様々な方法で保護者の皆さんとも個々の育ちを共有していきたいと思えます。

ただ、この数ヶ月の間に何十回と耳にした「3密を避ける」ということは、分散等園を始めてみて、あらためて幼稚園という幼児期の教育機関では本当に難しいことだと感じました。泣いている子が居る、今までだったらずっと抱っこしてあげていたのに、一瞬躊躇してしまうという先生もありましたし、子どもがずっと先生の手を握ってくることも、遊びの中で子ども達同士がだんだんとお互いの距離を縮めて遊ぶ姿もありました。

幼児期の教育は先生と子どもの信頼関係に支えられて成り立っています。特に自分の思いを言葉でやりとりすることが難しい時期ですので子どもの思いを読み取ることと同時に子どもに思いを伝えることは難しく、言葉以上に表情やそっと背中をさすってあげるなど、言語によらないコミュニケーションが重要な時期です。そして先生との信頼関係に支えられて、友達との関係を築いていきます。そのような子ども達が共に育ち合う場ですので、感染を防ぐために園内の消毒や子ども達の手洗い、マスクの着用等をはじめとしてできる限りの対応をしていきますが、完全に接触を防ぐことが難しいことをご理解いただけたらと思えます。又、集団の場での教育である幼児教育の本来の姿に戻るのには時間がかかると思えますが、地域の状況や太陽の塔の色を毎日確認しながら(笑)、育ってほしい力が育つように努力していきたいと思えます。

今後の行事やPTA活動等についても様々ご心配かと思えますが、PTAの役員の皆さんからもZOOM会議等で様々な意見やアイデアを出していただいていますので、ご家庭におかれましても、一気に気を緩めることなく、感染の防止や検温などのご協力を続けていただきながら子ども達の育ちを楽しみにしていただけたら幸いです。

どうぞこれからもご協力をよろしくお願いいたします。